

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	九州大学
整理番号	A11
構想名	戦略的改革で未来へ進化するトップグローバル研究・教育拠点創成（SHARE-Q）

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
(コメント) 本構想は、九州大学が取り組んできた大学改革、教育・研究の国際化に係る取組実績と、「多面性（学術分野の多様性を活かした国際連携）」、「発展性（アジア戦略の成果に立脚した世界展開）」、「重層性（研究型総合大学としての層の厚い教育・研究）」という3つの強みと特色に基づいて、世界トップレベルの研究教育拠点を目指すものである。 国際広報の強化などのレピュテーションマネジメントによる国際的評価の向上や、文理融合で海外留学を必須化する共創学部の立ち上げ、世界トップレベル大学等からの研究者招へいを行うProgress 100による研究交流推進など、国際化の観点で一定の成果を上げている。 一方で、構想時に設定された指標の内、外国人留学生の割合や留学経験者の割合などの中核的な指標を含め、約4分の3の指標が未達成であるが、最終年度にむけての達成見通しが明らかではない。今後、目標達成にむけて取り組みを工夫する余地はまだ多く残されているように思われる。 これらの点を改善するために、改めて従来の取り組みを分析し、全学と学部・研究科などの部局との意思疎通を改善するための組織改正などを行い、国際担当理事が19部局との直接面接を行ったことなどは、評価に値する。しかし、現在積極的に進められている大学のリーダーシップと部局との国際面での対話がまだ十分に成果に結びついていないため、令和3年4月の組織再編後には、全学的な取組に繋がるように連携していくことが必要である。 コロナ禍の中、指標達成という手段を目的化することなく、九州大学の独自性を生かした国際化の展開を強く期待する。 自走化については、総長裁量経費が拡充され、リーダーシップを発揮できる環境は整っている。今後、大学のビジョンや戦略的に重点配分を行う仕組みを有効活用し、費用対効果を見極めつつ更なる国際化を進めることを期待する。	